

## Panic Disorder 研究 第 1 報 — 受診経路について —

森下 茂, 植田美穂子, 山本 博三, 渡辺 昌祐

昭和63年1月より平成4年12月末の間に川崎医科大学精神科を受診した新患者は4991名あり, ICD-9の診断で不安神経症と診断された患者は271名(男135名, 女82名)あった。そのうち95名(男56名, 女39名)全体の1.9%がPanic disorderと考えられた。初発年齢は20歳代から30歳代にかけてが多かった。男女比は, 男:女=1.44:1とほぼ同数で, 米国の男:女=1:3と相違があった。当科を受診する以前に8割以上が医療機関を受診していたが, 適切な診断治療はほとんどなされておらず, 今後一層のPanic disorder概念の普及が必要とされると考えられた。

(平成5年12月8日採用)

### A Study of Panic Disorder. Part 1.

Shigeru Morishita, Mihoko Ueda, Hirokazu Yamamoto and Syosuke Watanabe

Panic disorder was unrecognized as a discrete psychiatric syndrome until a little more than a decade ago, when the DSM-III (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorder, Third Edition) was published. Research since that time has demonstrated that panic disorder is a prevalent and debilitating illness. Herein is reported a clinico-statistical analysis of panic disorder in the Department of Psychiatry at Kawasaki Medical School from 1988 through 1992. During the five years under study, 4991 patients visited our division. Of these 1.9 percent (95 patients) were diagnosed suffering from a panic disorder. First onset was most common in twenties and thirties. More than 80 percent of the patients had visited other hospitals before being diagnosed in our division, but they had not received effective treatment.

(Accepted on December 8, 1993) *Kawasaki Igakkaishi* 20(1): 19-21, 1994

**Key Words** ① Panic disorder ② Anxiety neurosis

#### はじめに

1871年, 米国の DaCosata<sup>1)</sup> が南北戦争の兵士にみられた心症状を irritable heart とする名称で報告以来, 心臓症状を訴えるにもかかわらず他覚的所見に乏しく, 器質的疾患を認めない

状態を soldier heart, effort syndrome, DaCosta syndrome, cardiac neurosis, neurocirculatory asthenia 等の名称で呼び, 自律神経系の障害として現在まで内科領域では扱われてきた。一方, 1894年 Freud が不安神経症を命名以来, 葛藤, 欲求不満の防衛機制として神経症者に前記の不安発作が起こると精神科領域で

は理解され治療されてきている。ところが米国精神医学会が1980年に新しい精神疾患分類としてDSM-III (Diagnosis and Statistical Manual of Mental Disorder. 3rd edition) を発表した際、生化学的側面、薬物療法的側面より、従来よりある不安神経症という言葉は抹殺し、Panic disorder と Generalized anxiety disorder に分類し、明確な診断基準を設定した。以来今日 Panic disorder が注目を集めるに至っている。またICD-10においても Panic disorder という病名が新しく採用され、Panic disorder の現状を調査することは今後の研究、治療に大いに役立つものと思われる。今回著者らは川崎医科大学精神科外来における Panic disorder の受診経路について調査した。

### 対象・方法

昭和63年1月より平成4年12月末までの5年間に、川崎医科大学精神科外来を受診した外来新患者4991名のうちICD-9の診断基準により不安神経症と診断された症例217例(男性135例, 女性82例)のうちDSM-III-Rの診断基準に準拠し、Panic disorder に相当する95例(男性56例, 女性39例)を抽出し、カルテをレトロスペクティブに調査した。

### 結 果

1) Panic disorder の男女比は1.44 : 1 (男:女)で男女間に有意差はなく、不安神経症者の44%, 新患者全体の1.9%を占めた。

2) 初発年齢は20歳代から30歳代にかけてが最も多く、男性のみであった60歳代を除いて男女間に差はなかった (Fig. 1)。

3) 来院時の主訴は、複数解答で Table 1 に示すように、不眠以外はDSM-III-Rの診断基準の中に含まれ、胸部症状が多かった。

4) 発症から当科初診までの期間と、当科初診前に他の医療機関の受診歴を見ると、95例中84例と8割以上に他院の受診歴があったが、そ

のうち精神科の受診歴がある者は3割にすぎなかった。受診までの期間別では18年を経過して当科を初診した患者を最長として、1年以上経過して初めて当科を初診した症例が40例と4割以上を占めた (Fig. 2)。

5) 他医療機関での診断名は、異常なしが84例中43例と約半数を占めていた (Table 1)。

6) 他医療機関での治療は、何等かの薬物が投与されたり精神療法が行われていた者37例に

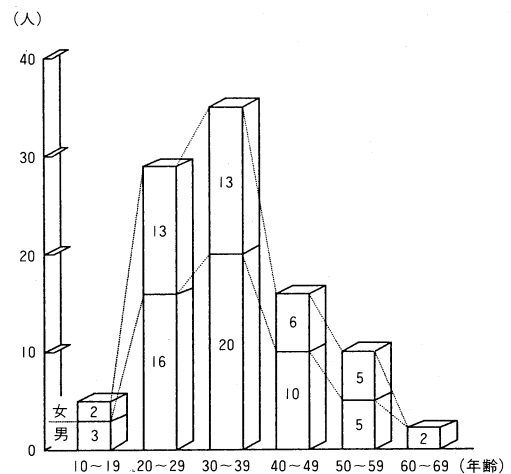


Fig. 1. First onset and ratio male : female in panic disorder.

Table 1. The chief complaints and the diagnosis in other hospitals.

来院時の主訴 (95例)		他施設での診断 (84例)	
動悸	70 例	異常なし	43 例
呼吸困難	32 例	自律神経失調症	11 例
胸が苦しい	24 例	不安神経症	5 例
過呼吸発作	9 例	精神的なもの	2 例
めまい	6 例	心気神経症	2 例
嘔吐	2 例	過呼吸症候群	2 例
発汗	2 例	心臓神経症	1 例
不眠	1 例	Panic disorder	1 例
		発作性頻脈	1 例
		疲労	1 例
		低血糖発作	1 例
		心身症	1 例
		うつ状態	1 例
		不明	12 例

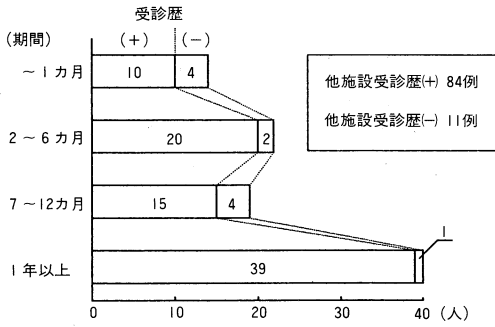


Fig. 2. The duration until first medical attendance to our hospital and the history of medical attendance to other hospitals.

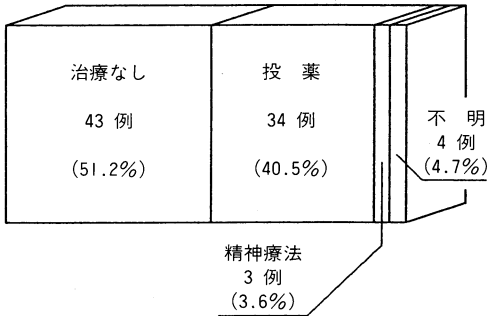


Fig. 3. The treatment of panic disorder in other hospitals.

考 察

Panic disorder という概念が1980年に発表されて以来、この耳慣れない疾患は精神科を中心に徐々に広がりを見せていると考えられてきた。事実国内においても1989年第30回日本心身医学会総会、1993年第89回日本精神神経学会総会等のシンポジウムにも取り上げられており、その他 Panic disorder に関する論文も臨床を中心として数多く国内でも見られている<sup>2)~4)</sup>。

年齢分布は米国では20歳代中頃が最も多いとされているが、今回の調査では30歳代が多く、米国の統計より少し高齢に発症しており、男女比も米国の1:3(男:女)で女性に多いという結果とは異なっていた。この傾向は日本のどの調査でもだいたい同じであるが、米国との差を説明し得る説は今のところない。今後の課題と考えられる。

先にも述べたが、精神科領域では広まりつつある Panic disorder であるが、今回の調査では病院を受診したにもかかわらず、適切な診断治療がなされておらず、患者自身が長年にわたって苦しんでいる姿が浮き彫りにされたと言えよう。つまり一般科においてこの Panic disorder の概念はほとんど広まっていないと思われた。今後より一層の医師への啓蒙が必要と考えられた。

対して半数以上の43例が特に何の治療もされていなかった (Fig. 3)。

文 献

- 1) DaCosata JM: On irritable heart: A clinical study of a form of functional cardiac disorder and its consequence. Am. J. Med. Sci. 61: 17-52, 1971
- 2) 竹内龍雄, 林 竜介, 富山学人, 根本豊貫, 長谷川雅彦, 星野敬子: Panic Disorder-4 類型化の試み. 精神医学 32: 957-962, 1990
- 3) 井出雅弘, 久保木富房, 熊野宏昭, 野村 忍, 末松弘行: Panic Disorder の臨床研究. 心身医療 1: 1180-1185, 1989
- 4) 中根充文, 道辻俊一郎, 荒木憲一: 内科外来集団における Panic Disorder. Upjohn Symposium 6: 7-18, 1992